

令和5年全国山火事予防運動

林野庁では、3月1日から7日まで「**火の確認 山を愛する あなたのマナー**」を統一標語として、「全国山火事予防運動」を実施し、全国で山火事予防意識の高揚を図る取組や、森林パトロール等の実施を呼びかけます。

山火事の様子(写真提供:宮崎県)

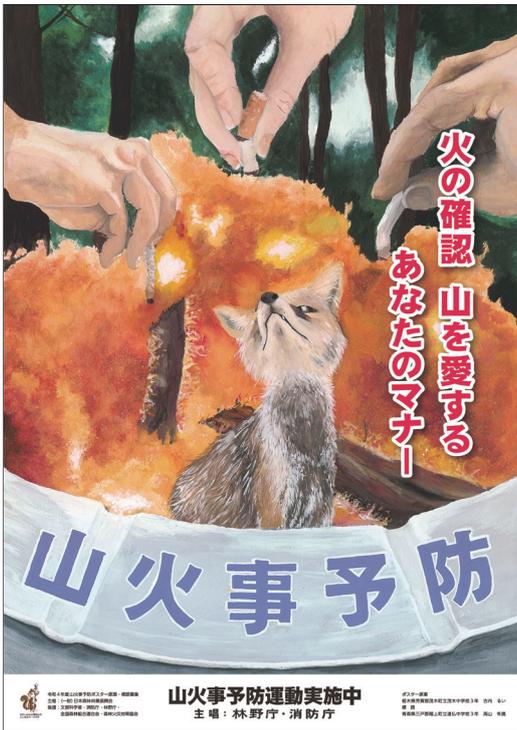
火の用心 春は山火事にご注意ください

例年、冬の終わりから春の行楽シーズンにかけて多くの山火事が発生しています

この時期は、暖かくなることでハイキングや山菜採りで人が山に入る機会が増えたり、農作業が始まったりするなど、火元となりやすい人間の活動が活発になります。また、雨が少なく空気が乾燥していることに加え、枯草や落葉などの可燃物が堆積して森林の中が燃えやすい状態になっています。これに強風等の条件が重なると、大きな山火事となる危険性が高くなります。

最近発生した山火事について見てみると、令和3年に栃木県足利市や群馬県みどり市で発生した山火事は住宅に近い場所で拡大したことから全国的に注目されました。また、令和4年には福岡県北九州市や熊本県阿蘇郡高森町などで野焼きを原因とする山火事が発生しています。

これらの山火事はいずれも2月～4月に発生しており、大きな被害をもたらしました。

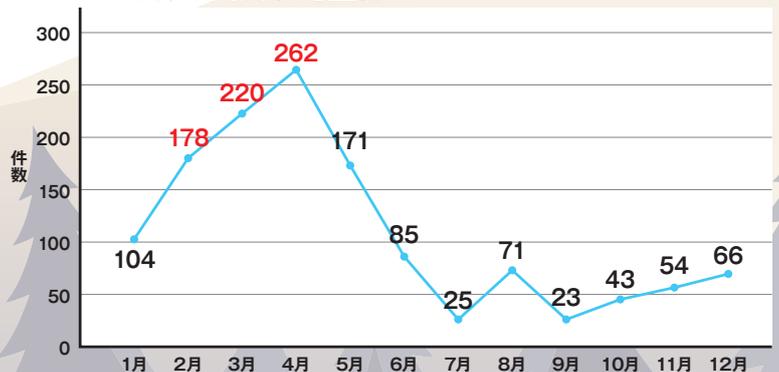


「全国山火事予防運動」の今年のポスターには、栃木県芳賀郡茂木町立茂木中学校3年の古内るいさんの作品が、標語には、青森県三戸郡階上町立道仏中学校3年の高山冬跳さんの作品が選ばれました。



山火事予防運動出発式(写真提供:宮崎県)

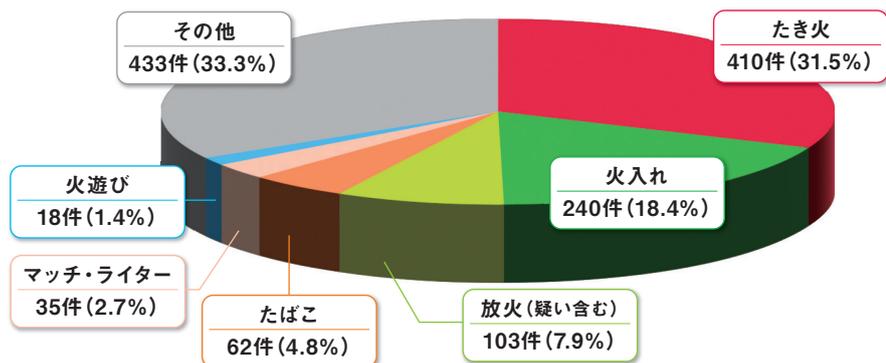
月別の山火事発生件数(H29～R3年の平均)



資料: 消防庁統計資料に基づいて作成

※ 山火事の半数以上が2月～5月に発生しています。

出火原因別発生件数 (H29~R3年の平均)



資料: 消防庁統計資料に基づいて作成

近年の山火事発生状況

年	H29	H30	R1	R2	R3	平均(H29~R3)
出火件数(件)	1,284	1,363	1,391	1,239	1,227	1,301
焼損面積(ha)	938	606	837	449	789	724
損害額(百万円)	900	202	269	201	176	350

資料: 消防庁統計資料に基づいて作成

※ 出火件数と焼損面積を1日あたりに換算すると、全国で毎日約4件発生し、約2ha焼失していることになります。

山火事は一度発生すると、長い年月をかけて育てた貴重な森林を瞬時に失うこととなります。また、その消火は容易ではありません。このため、発生の未然防止が重要です。

日本の山火事の発生原因は、多い順に、たき火、火入れ、放火(疑いを含む)、たばこ、マッチ・ライター...と続きます。このように、山火事の発生原因の多くは人為的なものであることから、私たちが山火事予防の意識を高く持ち、不用意な火の取扱いを控えることでその発生を防ぐことができます。

一人ひとりが火の用心を心がけ、日本の素晴らしい森林を守り、後世に引き継いでいきたいと思います。



林野庁からのお願い

1. 枯れた草等がある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと
2. たき火など火の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
3. 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
4. 火入れをする際は、市町村長の許可を必ず受けること
5. たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いながらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
6. 火遊びしないこと



山火事防止のシンボルマーク「まといりす」